

5月地震火山グループ研究会「東日本大震災の調査研究」

日時：5月20日（金）14:00 - 16:10

会場：京大宇治キャンパス 黄檗プラザセミナー室4, 5

14:00 - 14:30

発表者名：浅野公之（地震災害研究部門）

タイトル：「2011年東北地方太平洋沖地震本震の強震動生成域」

要旨：2011年東北地方太平洋沖地震では広範に強震動が観測された。これらの強震記録を分析し、地震動被害に密接に係る周期0.1-10秒程度の地震動を説明するための震源モデルを構築している。強震動から推定された強震動生成域と長周期地震波形や地殻変動、津波等によって推定されている時空間のすべり分布との関係を議論することで、プレート境界巨大地震の震源像や強震動生成機構に関する本質的な知見が得られると考えている。現時点での解析結果について報告する。

14:30 - 15:00 発表者名：川瀬博・松島信一（社会防災研究部門）

タイトル：宮城県 K-NET サイト築館(MYG004)周辺における微動観測と余震観測の状況報告

要旨：川瀬・松島研究室のメンバー5名と清水建設技術研究所のメンバー3名からなるチームは、4月29日から5月1日にかけて宮城県の K-NET 強震観測サイト MYG004 築館と MYG006 古川において、その地盤増幅特性を明らかにする目的で、サイト近傍でアレー微動観測を実施し、連続余震観測点を計5点設置してきた。現時点では、微動観測についてはそのスペクトル比の分析結果、余震観測については設置前後に記録された2地震のスペクトル比の分析結果しか得られていないが、その設置状況と予備的解析結果の概要を本震のスペクトル比と比較しつつ報告する。

休憩

15:10 - 15:40

発表者：遠田晋次（地震予知研究センター）・堤 浩之・杉山達哉・安田大剛（理学研究科地球物理学教室活構造学講座）

タイトル：4月11日いわき市南部で発生した M7 地震の地震断層

要旨：同地震によって、既往地質図と活断層図に示されていた井戸沢断層と湯ノ岳断層上で地震断層が出現した。念のため住民への聞き取りを行い、両断層とも4月11日の地震時に出現したことを確認した。両断層は『ハ』の字状に分布し、『ハ』の字内部には新第三系の堆積岩類が分布し、それを取り囲むように古期変成岩・花崗岩が分布し山地を構成する。

特に、湯ノ岳断層上に現れた地震断層はほぼ正確に地質境界に沿っている。変位センスは、一部にわずかな横ずれ変位を伴う正断層で、両断層とも西落ちのセンスである。長さはそれぞれ 14 km と 15 km, 最大上下変位量はそれぞれ 2.1 m と 0.8m に達する。共役ないしは延長関係にない 2 つの正断層が同時に活動した例は珍しいと思われる。

15:40 - 16:10

発表者：齊藤隆志（地盤災害研究部門）・松波孝治（地震災害研究部門）・福島洋（地震予知研究センター）

タイトル：InSAR 解析結果と 10mDEM を用いた水文地形解析との関係

要旨：4月11日いわき市南部付近で出現した地震断層について、長波長トレンドを除去したローカルな変動を表す InSAR 解析結果と国土地理院で公表されている 10mDEM を用いた水文地形解析結果の関係を示す。高度分布、傾斜分布、集水域形状、河道網形状、地すべり分布、および地質との関係を示す。空中写真判読を用いたリニアメント抽出とあわせて報告する。